

## 2018 年度第 5 回外洋常任委員会 議事録

日 時 : 2018 年(平成 30 年) 12 月 1 日(土) 17:00-18:30

場 所 : 東京夢の島マリーナ 2F 会議室

出席者 : (理事)

中澤信夫副会長、坂谷定生常務、宇都光伸、新田肇、菊池邦仁、平松隆、中村和哉、  
橘田佳音利、作田智恵子

(委員会)

ルール委員会外洋規則小委員会委員長 大村雅一

キールボート強化委員会委員長 金子純代

国際委員会外洋小委員会委員長 小林昇

外洋計測委員会委員長代理 角晴彦

外洋常任委員会事務局長 鈴木保夫

(オブザーバー)

JSAF 監事 児玉萬平

前国際委員会外洋小委員会委員長 鈴木一行

(順不同、敬称略) 計 16 名

議長 常務理事 坂谷定生(副会長代理)

記録 理 事 作田智恵子

### I. 挨拶

坂谷常務理事より、議長の馬場副会長が欠席のため、議事進行役を務めるとの挨拶があり、会議に入った。

### II. 議事

#### 1. オリンピックにおける外洋レースの実施について

出席の小林昇、オブザーバーの鈴木一行より 2024 年パリ大会より、正式種目として『男女混合 2 人乗りキールボートオフショア』が決まったとの報告があった。

2019 年マルセイユにおいて公開レースの予定。1 艇の枠は取れるのではないかと思う。その場合の選考をどうするかは今後の問題。案は小林、鈴木氏が作成。

坂谷常務理事から、先の JSAF 理事会において、外洋常任委員会で組織作りをする旨の進言を了承されたので、早急に検討していきたい。については、東京オリンピック・ショーケースイベントでも中心となってこれを進めてきた植松氏に、委員長をお願いしたいとの提案があった。これに対し、全会一致で承認、決定した。植松委員長の下、準備委員会を結成し、検討していく。

#### 2. 2019 ボートショーに係る活動について

JSAF 大村事務局長から、今後のボートショーのセーリングの PR の在り方について説明があった。今まではグッズ販売を主としてきたが、今年から趣向を変え館内にヨットを置いてセーリングの普及に結び付く活動に変えた。今後も普及に役立つ PR をしていきたい。ヨットに触れたい、試乗したい、乗るにはどうしたらよいか？などの問い合わせがあるので、各団体、ハーバーで体験乗船会を企

画し、その案内をするなどを検討している。

3. パラオ国際親善ヨットレースについて

新田理事より、パラオレースについての経過報告があった。

日本で開催の外洋レースが一時下火であったが、昨今沖縄レース、小笠原レースが復活し、少しずつ外洋レースにチャレンジするヨットが増えてきた。そんな中パラオが独立 25 周年を迎え日本との友好関係の中、この好機に親善レースを企画した。IRC クラスのほか、クルージングレースのようなものも検討中。

先の理事会での報告の通り、名誉会長にはパラオ大統領、副名誉会長には JSAF 河野会長の就任が決まった。予算についての質問に対して 8000 万円ほどの支出が見込まれるので、スポンサーが必要、現在は 500 万。

4. 小笠原レース開催について

引き続き、三崎会長である新田理事より、小笠原レースの開催についての説明があった。

2019 年 4 月 28 日から 5 月 6 日に開催。5 月 1 日に小笠原をスタート。

5. 今後のオリンピック応援フラッグリレーについて

坂谷常務理事から 2018 年のフラッグリレー実施状況報告があった。

6. 専門委員会報告

① WS/ORC 2018 年 年次総会報告:国際委員会オフショア担当小林

フロリダ・サラソータに 10 月 28 日から 11 月 2 日まで滞在し、WS 外洋関係委員会への出席、傍聴、ORC ジェネラルミーティングに出席した模様を報告した。

② IRC コンgress 2018 報告:IRC レーティングオフィス角

アイルランドのダブリンで開催された IRC コンgress に参加した IRC レーティングオフィスの角氏より報告があった。

引き続き日本での IRC 取得数が、ここ数年減少しているとの報告があった。

③ 事故報告体制構築の件

理事会でのルール委員会報告において実名での上告書が配布されたが、これは問題であり、このようなやり方では、まともな報告書が上がってこない。今後報告書の扱いについて取り決めが必要。

④ 外洋セーラーのためのルール講習会:ルール委員会外洋規則小委員会大村

外洋レースのためのルール講習会のチャンスがないので、福岡市での開催を行い、順次各地で開催していくことにした。

⑤ 2019 第 30 回ユニバーシアード競技大会:キールボート強化委員会

7 月 3 日から 14 日までの 12 日間のレースの案内があった。

⑥ 極東杯国際ヨットレース日本寄港について:キールボート強化委員会

富山県連高桑理事長より、2019 年以降に日本を寄港地に加えたいとの打診があった。ついては、運営面、費用面で JSAF の指導、強力をお願いできないかとの依頼に、キールボート委員会としては半年で準備するには難しいとしたが、主催者である中国より 12 月 4 日に JSAF にあいさつに來たいとの申し出に、大村事務局長が対応することになった。

⑦ ジャパンセールGPチームが始動:キールボート強化委員会

ACボート(カタマラン)でのグローバルサーキットシリーズに参戦。2021 年までに日本でレース

開催を計画。

- ⑧ 外洋ヨットの環境への取り組み—きれいな海を次世代へ:企画/外洋三崎鈴木一行  
マイクロプラスチックの海洋汚染が問題になっており、世界でプラスチック製品の規制が始まっている。そんな中、外洋レースにおいて世界のレーサーが表層プラスチックの採集と分析を公表している。また、東京オリンピックではセーリング会場に WS は使い捨て PET BOTTLE の使用禁止を提案。日本においても積極的に外洋セーラーが動き出す必要があると考える。2019年には外洋三崎主催・共同主催の長距離レースが予定されているので、そのあたりからキャンペーンを行い、動き出したいと考えている。

- ⑨ JC について

平松理事より、9月の常任委員会にて本年度の **Japan Cup** が中止に至ったことに関し、来年度の開催に向けて原因などを分析・検討することだったが、その後どのような検討がされているのかとの質問があった。これに対し、坂谷常務から現在未だ検討中である旨の回答があった。

以上

文責:作田智恵子